

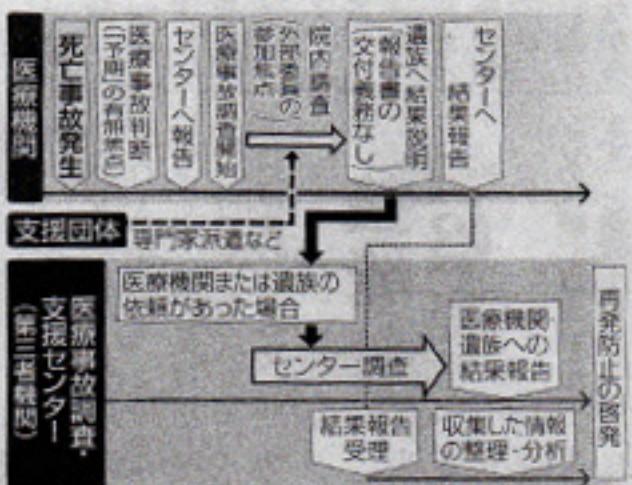
今月から始まった医療事

基づくこの新制度を医療事故被害者の遺族はどう見ていいのか。「患者の視点で医療安全を考える連絡協議会

会代表の水井裕之さん
「千葉県浦安市」は
「問題多い制度だが開始す
ることが大事。小さく産ん
で大きく育てていこうと各
地で呼びかけている」と話
す。

死因の解明に消極的。異状死は24時間以内に警察に届ける義務があるので届けたのは11日後だった。水井さんは「事故隠しの姿勢が許せなかつた」と振り返

聽|診|記|



医療事故調査制度 育てよう

水井さんは事故から1年後、医療事故調査削除必要性を訴える活動を始めて15年間続けてきました。「ようやくここまで来たの思いもある」と言いつつ

制度は、医療機関で「予期せぬ死」・「死産事故」が起きたとき、第三者機関である医療事故調査・支援センターへの報告と院内調査を医療機関に義務付け

センターや、医療事故は収集した統計調査の結果報告を整理して分析し、再発防止に関する啓発をしていく=図書

交通事故などに遭い、死亡者数が増えていているのか減つ

この「元祖」医療団体者の心の声。

ているのか、そんなことを思ふ
え分からぬ状態。それで
も、今回の制度で「死亡」者数
が把握でき、推移も分かる
ようになる。その上は前進
と前向きにとらえる。とい
うのは「死亡」者数が明確に
なれば、それを減らす対策
に医療界などが本腰を入れ
るようになる可能性がある
からだ。

制度を改善しながら医療の質と安全性を向上させていきたい。そう願つ水井さんは、市民に呼びかけるように次のことも語つた。「医療事故は身近にあります、人々ではありません。誰もが医療やこの制度に關心を持つことが大切」医療機関の対応に疑問を感じたら質問したり、院内過

たた制度の課題も挙げる。例えば、「予期せぬ死亡事故かどうか」の判断は

査を求めたりしましょう。
そうする」とよい方向に
変わっていく」